

心に残る文化財子ども塾 浜田市立松原小学校

1. 活動の概要

令和2年7月8日(水)、浜田市立松原小学校で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。『古代の人々の生活に触れよう～勾玉づくりに挑戦～』と題して、浜田の古代の歴史について知り、文化財に対する興味や関心を高めるとともに、ふるさとへの愛着を高めることや、ろう石を素材とした「勾玉作り」を体験することで、古代の人々の生活のようすや物づくりの技術について知ることをねらいとして取り組みました。

はじめに、埋蔵文化財調査センターの職員が浜田市教育委員会で刊行した歴史の副読本の内容に沿って、現在の浜田市域の古代までの歴史について代表的な遺跡や話題を交えながら解説を試みました。

次に、埋蔵文化財調査センターの収蔵品の中から弥生時代の稲作や炊事に使われた土器や石器の組み合わせを間近に見学してもらいました。稲の穂を刈る石包丁や煮炊きを使う甕、貯蔵のための壺、甕や壺を据える器台、食物などを盛る高坏などです。用途の違いによって様々な土器や石器が作られ、使用されていた実際の遺物を目の当たりにして、児童の皆さんそれぞれにいろいろな興味がわいてきたようです。たとえば、土器の一部が黒くなっていることについて、土器の焼成の過程で黒くなったものと、煮炊きの時のふきこぼれが焦げ付いて黒く残っているものがあることを解説しました。

会場となった教室は、勾玉づくりのために時間当初から床にシートを張って準備しており、遺物の見学のあと、休憩を取って勾玉づくりに「挑戦」しました。

玉類や勾玉の歴史と今回のろう石を原料とする勾玉製作についてプリントで簡単に解説し、加工しやすいろう石や道具のセットを皆さんに配り、棒やすりや紙やすりでひたすら研磨、成形して、目指す形へ作り上げていく、かなり困難な時間へと入って行きました。皆さん辛抱強く作業に取り組んで、あらかじめ開けてあった穴にひもを通してペンダントにするところまでできたようです。時間内にできなかった部分については、後で皆さんそれぞれに取り組んでいただくことにしました。

2. 活動の様子

1)浜田の歴史について知る。弥生時代の土器を見学する。



2)古代体験活動～勾玉作り～



3. 子ども塾を終えて

1) 児童の皆さんから…

- ・勾玉づくりは楽しかった。
- ・弥生土器に初めて触れてすごい迫力だった。
- ・縄文土器や弥生土器の原料となる粘土や素材について詳しく知りたい。
- ・浜田から出土した土器の種類をもっと知りたい。
- ・縄文時代や弥生時代の遺跡に行ってみたい。
- ・縄文時代や弥生時代の家を見たい。家の中に入りたい。
- ・縄文時代の人の食べ物を実際に食べてみたい。
- ・弥生時代の土器を見つけない。

2) 担任の先生から…

- 勾玉づくりは子どもが喜んで取り組んでいました。
- 子ども向けの掲示資料等見せながら話してもらおうと理解が深まると思います。

3) 埋文センターから

事前の打ち合わせ、学習指導案などのやりとりは電話・ファクシミリと電子メールなどの手段を活用して行い、事前訪問は差し控えました。会場選びや準備物の選定や用意はすべて学校側にお任せし、センター担当者は勾玉の製作体験に直接関わる道具と、当センターに用意のある弥生時代に関わる遺物の貸出セットを準備しました。

今回は、浜田市教育委員会にも事前事後訪問しておらず、当該事業への参画も依頼していません。また、市教委には資料貸出等についても一切依頼しておらず、松原小学校の極身近の考古資料などを提供することはできませんでした。

しかし、つい最近、浜田市教育委員会によって浜田の歴史に関わる副読本が刊行配布されており、これを活用して、ある程度は歴史の移り変わりに沿った解説ができたと思います。

専門的で難解な用語を交えた解説に流れがちなセンター職員の話に対して、児童の習熟度を熟知する担任の先生が、わかりやすい解説を適宜挟んでくれたので、児童の理解の助けになったと思います。

弥生時代の稲作と炊事や食事に関わる県内出土の考古遺物に「触れて」、児童の興味も盛り上がったと思われます。煮炊きに使用する土器についている「ふきこぼれ」の痕跡と焼成黒班の黒に興味が集まったように思われます。

勾玉は、もう少し事前に成形して、角をとっておかないと、教室で取りかかった時に、手間と時間がかかりすぎて、児童たちの興味が持続しなくなるのではないかと心配されました。今後の検討課題と考えます。